Vol.11
2013.1 発行

発行責任者 亀岡市立病院広報委員会
〒621-8585
京都府亀岡市篠町篠野田1-1
TEL 0771-25-7313
FAX 0771-25-7312
http://www.city.kameoka.kyoto.jp/hospital/

病院理念

■急性期医療を中心とした適切かつ良質な医療を提供します。
■患者さまの権利を尊重し、理解と納得に基づいた患者さま中心の医療を行います。
■地域医療機関と連携し、地域に求められる救急医療・高度医療に取り組み地域医療の向上に貢献します。
■公共性と経済性を考慮し、市民の理解と信頼を得られる透明性のある病院運営を行います。

CONTENTS

ごあいさつ …… 1
新しいCT診断装置と3Dワークステーションの心臓疾患への活用…… 2・3
電子カルテシステムの稼動について…… 4
平成23年度病院事業会計決算の概要 … 5
糖尿病教室からのお知らせ…… 6
トピックス …… 6
クリスマス会の開催について
病院職員紹介
地域連携医のご紹介 …… 7
十倉佳史胃腸内科クリニック
和田眼科
編集後記 …… 8
広報誌読者からのご意見等募集案内
アクセスマップ …… 8

亀岡市立病院広報誌

桔梗 ききょう

ごあいさつ

平成24年12月1日午前零時 当院での電子カルテシステムは、緊急待機の職員に見守られながら、静かにそして確かに稼働を開始しました。より安全で効率的な日常診療の実践を目指し、亀岡市立病院の改革プラン事業の一角として約3年前より準備をして参りました。コンピューターを基本とした患者管理システムと言いますと冷徹な印象もしますが、日常診療においては 重要な情報を今まで以上に患者様と医療スタッフ間で共有しやすくなるのが大きな特徴の一つです。勿論医療スタッフ同士においても同様で、機能的に配置されたカルテ内容や 見やすく統一されたオーダー形式は、単に業務の効率化のみならず医療事故の発生防止に 大きく貢献する事が期待されます。しかし一方でそれを利用するのは われわれ「人」であり、医療は「人のために有る」のですから、器械のもたらす情報を如何に有効に活用するかが最も重要な点であることは忘れてはなりません。導入後1ヶ月が経過しました。当初新しいシステムへの戸惑いによる混乱は多少見られたものの、幸い大きなトラブルは発生することなく 予想以上に順調な滑り出しであったかと思います。システムが安定するためにはもう少し時間が必要かと思いますが、近い将来には皆様の診療に十分貢献するツールとなるでしょう。

一方で 本システムの導入に当たり新たな当院の問題点も浮き彫りとなりました。勤務する医師のおおよそ3分の2が大学からの派遣を中心とした非常勤医師であるという実態は、将来にわたり地域に根付いた医療を提供するにあたり、重要な問題となりうることです。地方に存在する病院にとって医師確保は困難な状況が続いていますが、これまで当院を支えていただいた京都府立医科大学以外にも 人材を供給していただける施設の開拓と、将来当院を支えてくれる後輩医師の育成体制の確立にむけ努力することが急務であると考えております。

亀岡市立病院 副院長　天池　寿

Kameoka municipal hospital

新しいCT診断装置と3Dワークステーションの心臓疾患への活用

当院に新たに配備された東芝製80列CT装置Aquilion Primeにより、今まで当院では出来なかった心臓CT検査ができるようになった。配備されてから現在まで27例に行っている。その有益性と限界について説明させていただき、実際の症例も少しではあるが紹介したいと思う。

1. 有益性について

まず不要な心臓カテーテル検査を避けることができるのが良いと思われる。
胸痛などの症状があり、狭心症ではないかと疑われる場合に、これまでは冠動脈造影検査、いわゆる心臓カテーテル検査を行っていた。しかし、心臓カテーテル検査は施設によって差はあるが、通常は入院しないと受けられない検査である。当院では最短でも3日間の入院期間を準備していただかないと出来ない検査である。つまり仕事を休む段取りをしていただかないといけないのである。もちろん3日間の入院費用、心臓カテーテルの検査費用などが必要となる。さらに心臓カテーテル検査では、これも施設によって差があるものの、およそ1000人に1人ぐらいの割合で、検査で死亡するという統計データが明らかにされている。もちろん心臓カテーテル検査の前には死亡を含め、不幸の転帰をとる場合があることを説明し同意を得ているが、患者さんや家族の方にあまり声高には言いづらい内容である。心臓カテーテル検査を受けたところ冠動脈は正常とわかったが、検査のせいで死亡したとしたらどうだろう。残された家族も医師も残念で仕方がないだろう。検査は本当に必要だったのかと悔やむだろう。もちろん、どのような検査、手術にも危険はつきものだが、心臓CT検査はその点でカテーテル検査に比べると危険性が低い。また心臓CT検査を選択した場合は検査の日に通院すれば良く、入院の必要が無い。その結果、冠動脈に全く異常がないと判断されればカテーテル検査の必要が無いので、多くの患者さんにとって有益であり無駄な医療費を節約できる可能性がある。

2. 限界について

いつでも誰でも受けられるわけではなく、心臓のすべてを評価できるわけではないという限界がある。
心臓CTといっても、現在のシステムで評価可能なのは、冠動脈の石灰化（動脈硬化）と冠動脈の評価（走行、狭窄など）、そして心機能の3つに限られていると思う。心筋の性状評価、心臓弁膜症で弁が今どのような状態にあるか、先天性心疾患などの評価はできない。また検査を受けるためには、意識がしっかりしていて、じっと動かずにいられる必要があり、10秒弱のあいだ息を止められる方に限られる。息を止めておかないと撮像中に心臓の位置が動いて像がぶれるからだ。同様の理由で不整脈のある方も検査しにくい。脈が速い人には事前に脈を遅くする薬を使用する必要がある。造影剤を用いる検査には共通のことだが、腎臓の働きが悪い人や造影剤にアレルギーがある人には行えない。糖尿病の方でビグアナイド系の薬を飲んでおられる方は撮影に当たって特別な注意が必要である。つまり現状では心臓CTは誰でも受けられるのでは無く、限られた一部の方しか受けられないのだ。一時、救急で胸部痛を訴える患者さんに対し、心臓CT検査は心筋梗塞と大動脈解離、肺塞栓症を一度にスクリーニングできるともてはやされたことがあった。しかし現在では放射線被爆量と必要な造影剤が多量となるため、そのような用いられ方は慎むべきであると、ガイドラインで推奨されなくなった。当院では緊急では行っていない。

撮像したが充分な評価、診断ができない場合もある。上記理由で撮像時に像がぶれてしまった場合は、3Dの画像を構築するためのもとになるデータが正確でないのだから、評価できないのは容易に理解していただけると思うが、それ以外にも評価できない場合がある。造影剤の注入と撮影のタイミングが微妙にずれると、造影剤で淡く染めるべき部分（右心室）が染まらず、心機能評価が不能となることがある。ちょっとしたタイミングのずれであっても、これは撮像が終わった後では修正が効かないのだ。そのため心臓CT検査は放射線技師に他のCT検査の撮影時とはまた違った緊張感を強いる検査である。心臓CTには特別に訓練された看護師と循環器内科医が、検査の開始から終了まで立ち会って行っているが、撮像の瞬間は固唾を飲んで見守っている。

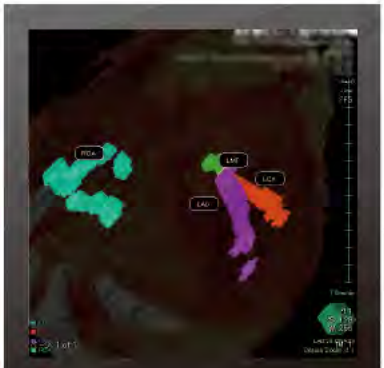
冠動脈の石灰化が著しい場合は、冠動脈内腔の狭窄程度を正確には評価できないことがある。これは解析ワークステーションの性能向上により解決が図られるようであるが、残念ながら今はまだその途上にある。最後にもうひとつ。当たり前の話ではあるが、心臓CT検査では治療はできない。

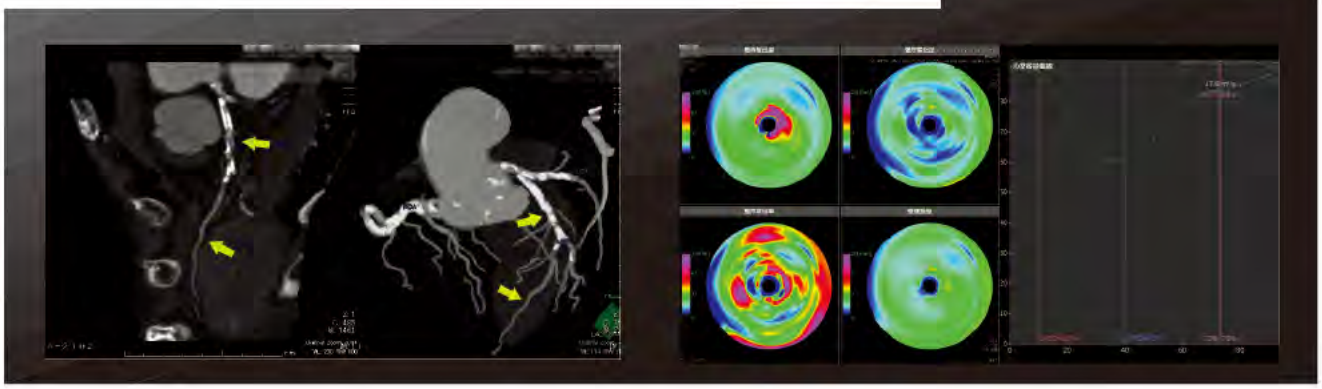
3．検査例の紹介

心臓CT検査でもし冠動脈に治療が必要と思われる部分を見つけた場合は、精密検査として心臓カテーテル検査を受けていただかなければいけない。その場合も心臓CT検査の結果から治療方法を予想した上で、最適と思われるプランを患者さんに提示できるという利点がある。以下に実例を紹介する。(注：年齢・性別等個人情報は伏せて、なるべく個人が特定されないよう努力したつもりであるが、本人にとっては自分のことだとすぐ気付かれるであろう。どうか御容赦いただきたい)

症例 1 心臓バイパス術を受けた家族がいて自分も症状があるので当院を受診した。心臓CT検査を選択した。**(左図)** 冠動脈瘤という冠動脈に著明な拡張がみられる部分と狭窄した部分が混在していた。川崎病の既往はなかった。

症例 2 糖尿病で通院していたが、ある日心不全で救急搬送される。胸部レントゲン検査で心拡大著明、大量の胸水を認めた。心不全の改善後に心臓CT検査を行った。**(右・下図)** すべての冠動脈の近位部(根もとのほう)に著しい石灰化が認められる。冠動脈はいずれも石灰化している部分で高度の狭窄あるいは閉塞が疑われるが、遠位部(先のほう)は石灰化が無く血流も保たれている。したがってこの症例では心臓バイパス術が適切な治療と考えられる。ただ心機能が著しく低下しているためリスクは高い。いずれにしても心臓内科だけの施設では対応は困難と判断されるので某病院心臓外科に相談することになった。





症例 3 最近、歩行時に胸が圧迫されると受診し、心電図異常を指摘された。心臓CT検査で石灰化は前下行枝に少し見られる程度で、正確な狭窄度は判断困難であったため後日心臓カテーテル検査を当院で行った。当院の3Dワークステーションでは、心臓カテーテルでの冠動脈造影検査の結果と同じ方向の冠動脈CT検査の結果を瞬時に選択して表示してくれる機能がある。**(右図)** いわゆるスパイダービューで両者を比較したものであるが、左冠動脈前下行枝(#6)の90%狭窄が、冠動脈CTにおいて2つの石灰化部分にはさまれるようにあることがわかる。これはカテーテル治療の対象となる病変であり、某心臓内科でステント治療を受けることになった。

以上、心臓CT検査について紹介した。

(心臓CT検査についての相談は、当院内科循環器科でお願いします)

循環器科
赤壁　佳樹　　松尾　龍平

電子カルテシステムの稼働について

「医療の質やサービスの向上」「安全性の確保」「他院との連携強化」「経営の効率化」を基本方針として、平成24年12月1日午前０時から「電子カルテシステム及び各種部門専用システム」が稼働しはじめました。電子カルテと言えば、ただ診療記録が電子化されるだけのような印象を持たれると思いますが、これまで紙に記録されていた診療記録や検査データ、薬や食事の記録、医療連携に関する情報など･･･ほとんど全ての診療情報が紙伝票でなく総合的に電子化され、病院内で共有できるようになりました。

患者様にとってこのような診療情報を、総合的に電子化する最大のメリットとは何でしょうか？

診療データが一旦正確に蓄積・保存されると、必要とされる時に容易にデータが引き出され、色々な現場で瞬時に利用できます。

しかし、コンピュータの世界はなかなか融通が利かないこともあります。たとえば診察券で患者さんを確認しないと受付してくれません。また、キーボードからの入力は、紙カルテに比べて時間がかかります。このようなコンピュータシステムの導入には率直なところ反対意見もでました。しかし、5年・10年先を見据えた病院の将来構想には、電子カルテを利用した医療改革が必要と判断され、病院長・副院長の強いリーダーシップによって導入が進められました。

今後はより円滑な電子カルテの運用を求めて各現場で工夫を続けながら、より進化したシステムへと更新していくことが必要です。システムダウン時の対応や個人情報の保護、データの安全管理、診療データの利用のための抽出や出力･･･など、安定したシステムの改良に向けて研究して行かなければなりません。

その結果、患者様へ“より質の高く、効率の良い医療”を提供できる環境へと進んで行けると考えています。

最後に、電子カルテの導入にあたって万全の態勢を取れるように準備を進めてきましたが、稼働後しばらくは、入力操作への慣れや増大する煩雑な情報処理への対応などの課題もあり、想定外のトラブル等により待ち時間が長くなることも予想されます。何かとご迷惑をおかけしますが温かい理解と協力を宜しくお願い致します。

電子カルテになって、これまでの診療とどの様な点が変更となったのか？

1. 予約の有無にかかわらず受付が必要です。
2. 受付機から印刷された基本カード（受付票）、診察券を透明なファイルに入れて、
   受診する診療科のカウンターへお越しください。

電子カルテになって良くなったこと･･･

1. 採血、ﾚﾝﾄｹﾞﾝの結果が早く届きます。
2. 患者様も、診察室の画面上で医師と一緒に検査結果等を確認して頂くことができます。
3. 支払計算が早くなりました。
4. 医療の安全性が一層高くなりました。
5. 紙カルテのように過去記録を探す必要がなくなり、診療が早く出来るようになりました。

平成２３年度市立病院の決算概要について

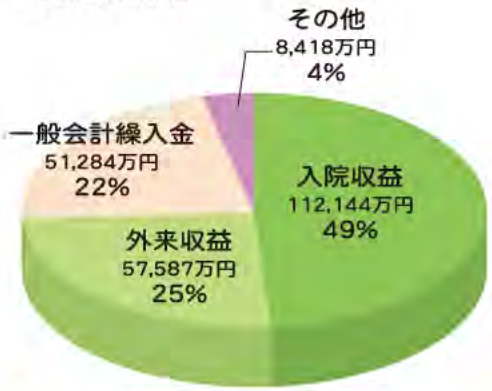
亀岡市立病院は、平成１６年度に開院して平成２３年度で８年が経過することになりました。全国的な医師不足や診療報酬改定など医療を取り巻く環境が依然厳しい状況でありますが、市民の命と健康を守るための安全安心の拠点施設として、良質な医療を継続して提供していくことを使命として、地域医療機関との連携を深め、医療サービスの向上や診療体制の充実、経営の効率化を図りながら病院理念の達成と市民から信頼される病院づくりのため努めました。また、平成２３年度は、亀岡市立病院改革プランの最終年度であり、職員が一丸となってプランの目標を目指して取組を進めた結果、平成２２年度に引き続き単年度収支は黒字を達成することができました。

１．患者数の状況

入院患者数は、年間では２２年度に比べ２３７人減少して延べ２８，５６６人となり、１日平均では２２年度に比べ０．９人減少して７８．０人となりました。病床利用率は、２２年度に比べ０．９ポイント減少して７８．０％でありました。

また、外来患者数は、年間では２２年度に比べ８７８人増加して延べ７２，７３３人となり、一日平均では、２２年度に比べ３．６人増加して延べ２９８．１人となりました。

（収益の構成）

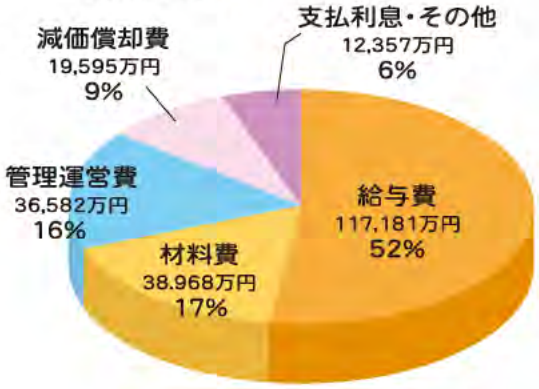


計229,433万円

２．収益的収入及び支出の状況

収益的収入は、２２年度に比べ７，９８０万円増加して２２億９，４３３万円となりました。内訳は、入院収益が１１億２，１４４万円、外来収益が５億７，５８７万円、一般会計繰入金が５億１，２８４万円、室料差額や予防接種などの収入が８，４１８万円となっています。一般会計繰入金は、国の制度などにより病院事業の経費のうち政策医療である救急救命医療や高度医療、企業債償還金など国や市の一般会計が負担すべきと決められている経費に相当する収入です。

（費用の構成）



計224,683万円

一方、収益的支出は、２２度に比べ６，４６３万円増加して２２億４，６８３万円となりました。内訳は、常勤や非常勤職員の給与費が１１億７，１８１万円、薬品や診療材料などの材料費が３億８，９６８万円、施設の管理運営などの経費が３億６，５８２万円、施設や医療機器などの減価償却費が１億９，５９５万円、企業債の支払利息が６，４０８万円、その他が５，９４９万円となっています。

年間の経営成績をあらわす収益的収支差引では、平成２２年度に３，２３３万円の経常利益（黒字）を計上し、平成２３年度も引き続き約４，７５１万円の黒字を計上しました。 その結果、前年度からの繰越欠損金４億６，７９２万円を差し引いた当年度末処理欠損金は４億２，０４１万円となっています。

今後とも“安心と信頼の医療”を目指し、公共性と経済性を考慮して透明性のある病院運営に努めてまいりますので、市民の方々をはじめ関係各位の皆様方のご理解とご協力をお願いいたします。

※平成２３年度病院事業会計決算の概要及び改革プランの実施状況については、当院のホームページに掲載しておりますので、ご参照ください。

糖尿病教室からのお知らせ

新年明けましておめでとうございます。

糖尿病教室は、糖尿病予備群の方やご家族にも参加していただける健康教室です。

これまでの療養生活を見直したい、頑張っているのに検査値の改善が認められない、今まで以上に健康に気をつけたいという方がいらっしゃいましたら、是非一度糖尿病教室に参加してみてください。何が問題なのか一緒に考えましょう。

写真は世界糖尿病デーにちなんで作成したもので、外来フロアに設置していました。糖尿病委員会では、糖尿病教室以外にもいろいろな取り組みをしています。病院ホームページにも糖尿病教室のコーナーがあります。一度覗いてみてください。

今後の教室開催スケジュールです

日　程	講義内容	講　師
2月5日（火） 2月15日（金）	糖尿病と食事の話	森管理栄養士 （糖尿病療養指導士）
3月5日（火） 3月15日（金）	糖尿病と検査の話	原臨床検査技師 （糖尿病療養指導士）
4月16日（火） 4月19日（金）	糖尿病と運動	辻運動器疾患センター長
5月24日（金） 5月28日（火）	糖尿病と検査の話	原臨床検査技師 （糖尿病療養指導士）
6月21日（金） 6月25日（火）	糖尿病と薬	吉見薬剤師 （糖尿病療養指導士）
7月19日（金） 7月23日（火）	フットケア	谷村看護師 （糖尿病療養指導士）

皆様のご参加をお待ちいたしております。

糖尿病委員会　スタッフ一同

トピックス

第９回クリスマス会を開催しました

昨年の12月21日（金）に当院外来フロアにてクリスマス会を開催しました。当院のクリスマス会は、普段お越しいただいている患者様と、いつもの診療の時には出来ないような交流を行い、信頼関係を深めたいとの想いから、平成16年の開院時から、毎年開催させて頂いております。今年は、看護師等によるダンス、腹話術、ハンドベル演奏、各技師による体操、院内各科医師によって結成された“ドクターズ”によるコーラス、最後には特別ゲストとして明智かめまるくんを迎え、みんなでかめまる体操を踊るなど、盛りだくさんの内容で患者様と楽しいひと時を過ごしました。次回開催の折には、ぜひ、皆さまのご参加をお待ちしております。

病院職員紹介

病院総務課
主任
西田 圭介

私が専ら、今一番はまっていることは、育児です。我が家には、２人の息子（長男９歳、次男５歳）がおりますが、彼らを観察していると、実におもしろい！です。運動会や発表会などでがんばっている姿を見ると、こんなことができるようになったんやなぁと我が子の成長を感じることができ、とても感動します。そんな中で、赤ちゃんの頃から特に注目しているのは、一体、人間とは、どのようにして言葉を習得していくのだろうか、という点です。みなさんも、空を飛ぶ夢を見られたことがあると思いますが、これは、精神分析学上では、初めて言葉を話せるようになったときの心理状態の現れだそうです。もちろん、生身の人間は空を飛ぶことは不可能ですが、つまりは、言葉を話すことができるということは、それぐらいすごいことということです。泣くだけの頃から、喃語、１語文、おうむ返し、２語文、３語文、定型文、オリジナルの言葉と、少しずつ変遷をしていく過程の中で、我が子とコミュニケーションをとることができる喜びとともに興味深さを感じています。これからも、子ども達も成長していくにつれ、いろいろと難しい年頃も迎えたりもしますが、充分な対話をする中で、私自身も、親として、人として成長していけたらいいなと考えています。

地域連携医のご紹介

当院では、地域の医療機関と連携して、地域に求められる救急医療・高度医療に取り組み、地域医療の向上に貢献することを病院の基本理念として、患者さま中心の医療を展開しています。

そこで、本院と関係の深い、地域の連携医療機関を順次紹介させていただきます。

十倉佳史胃腸内科クリニック

院　長：十倉　佳史

住　　所：亀岡市南つつじヶ丘大葉台2-28-2
T　E　L：23-5001
標榜科目：胃腸内科、消化器内科、内科
診療時間：午前9:00～12:00、午後5:00～8:00
土・日曜日の午後および祝日休診

院長より一言

亀岡市の拠点病院である亀岡市立病院の医療スタッフの皆様には日頃大変お世話になり、この紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。平成21年2月、豊かな自然環境と閑静な環境に恵まれたこの地に開院して以来、専門医療がもっと身近に受けられる場を提供したいと「安全で質の高い内視鏡診療の提供」をモットーに逆流性食道炎、消化性潰瘍、消化管ポリープ、消化器癌、機能性胃腸症、過敏性胃腸症、炎症性腸疾患などの消化管疾患の他、様々な内科系疾患に対し地域に密着した診療を行っております。急速に膨らむ少子高齢化社会、医療を取り巻く環境も大きく変化する中、家庭医としての職責はますます重要となってまいりました。より良い医療を行うには中核病院、診療所、介護施設など多くの医療機関が連携し、円滑に情報交換を行い、地域ぐるみで患者様中心の医療を実現することが大切です。病める人は弱い立場にいることを常に考え、これからも密接な連携を心がけ、健康と笑顔をつなぐ医療に努めたいと考えております。 今後とも、何卒よろしくお願いいたします。

和田眼科

院　長：和田　恵美

住　　所：亀岡市篠町柏原久保垣内1-3
T　E　L：25-1450
標榜科目：眼科
診療時間：午前9:30～12:00、午後4:00～6:30
火・水・金・土曜日の午後および日祝日休診

院長より一言

平成19年10月に馬堀駅前で継承開業し、早いもので５年経ちました。亀岡市立病院の皆様、特に歴代の眼科の先生には、白内障手術や医院では対応できない患者さんをご診察いただいて大変お世話になっています。ありがとうございます。

私は平成13年頃から亀岡シミズ病院、洛西ニュータウン病院で勤務させていただいていました。自宅も亀岡から近く、とてもご縁のある土地だなと感じています。継承開業の話をいただいたのも偶然ですが、以前の勤務先と近いため、たまに医院を見つけて診察に来てくれる患者さんもいて、とても嬉しいです。

子育てをしながらの開業ですので、診察時間も短いですが、地域の方々に頼りにしていただけるような眼科をめざし、それぞれの患者さんの年代にあわせた適切な診察、治療、情報を提供できるように心がけています。

小さな眼科ですが、気楽に相談でき、満足していただける眼科でありたいと思います。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

編集後記

最近まで暖冬が続き、地球温暖化と言われていたのが嘘のように寒い日が続いております。亀岡は山が近く、天気が急変することもしばしばです。また坂が多いために路面の凍結にはくれぐれもご注意ください。冬の朝には自転車の転倒者がよく来られます。

さて話が変わりますが亀岡市立病院では２０１２年１２月から電子カルテが導入されるという大きな変化がありました。当初は慣れないことによる誤操作やもたつきでいろいろと患者様にはご迷惑をおかけして申し訳ありません。しかしながらこの導入が軌道に乗れば待ち時間の短縮やヒューマンエラーによる医療ミスを防ぐことに必ず役立つと思われます。また、今までその日に出なかった検査結果の多くを、すぐにお伝えすることもできるようになりました。これからもご支援よろしくお願い申し上げます。

広報委員会委員長　田中 宏樹（診療部長兼外科主任部長）

編集委員からのお知らせ

本誌『桔梗』の表紙や挿絵に掲載させて頂く写真やイラストを募集させて頂きます。
テーマの規定はありません。みなさまより多数のご応募を心よりお待ちいたしております。
採用、不採用に関わらず、写真やイラスト、画像データ等はご返却できませんのであらかじめご了承下さい。詳細につきましては、下記担当者までお問い合わせをお願い申し上げます。

【担当者】亀岡市立病院　病院総務課　岡田（平日、午前10時から午後３時まで）

JR馬堀駅から徒歩約5分/京都縦貫道篠インターから車で約5分/駐車(輪)場有

亀岡市立病院

〒621-8585　京都府亀岡市篠町篠野田１-１
TEL　0771－25－7313　FAX　0771－25－7312
http://www.city.kameoka.kyoto.jp/hospital/access/index.html

「がんばろう日本」～亀岡市は東日本の復興を支援します～